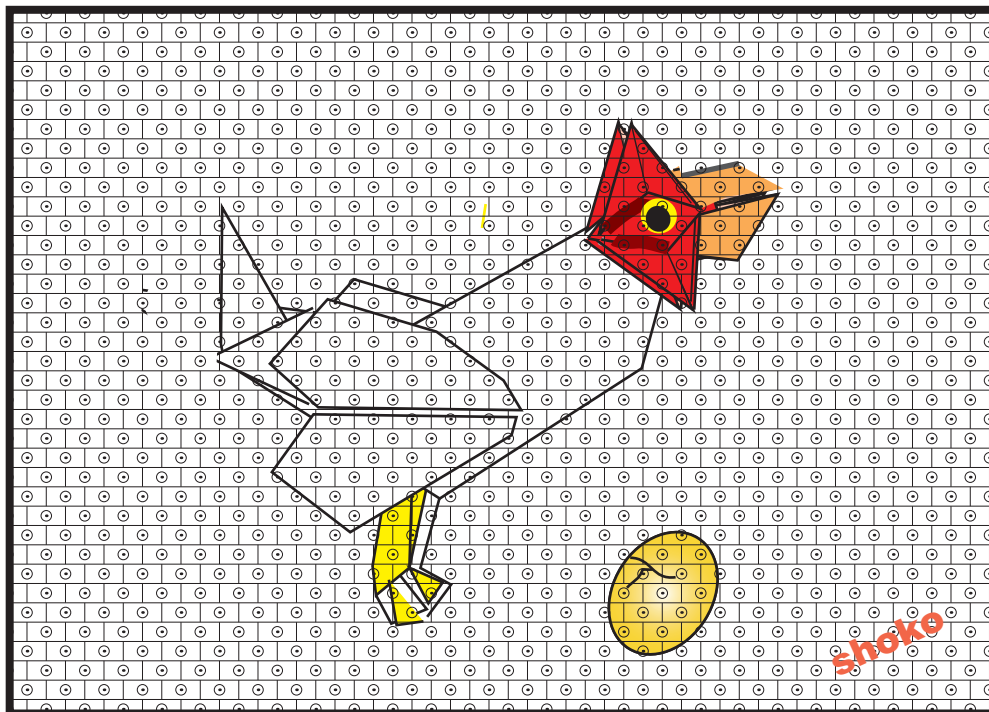


## 啐啄同時

## そったくどうじ

僧、鏡清に問う、学人啐す、請う師、啄せよ  
 清云く、還って活くことを得る  
 僧云く、もし活せずんば、人に怪笑せられん  
 清云く、また是れ草裏の漢  
 碧巖録（へきがんろく）



禅の言葉に「啐啄同時」というのがあります、5月は野鳥にとっては子育ての時期です、卵の中のヒナ鳥が殻を破ってまさに生まれ出ようとする時、卵の殻を内側から雛がコツコツとつつくことを「啐」といい、ちょうどその時、親鳥が外から殻をコツコツとつつくのを「啄」といいます。雛鳥が内側からつつく「啐」と親鳥が外側からつつく「啄」とによって殻が破れて中から雛鳥が出てくるのです。

両方が一致して雛が生まれる「機を得て両者相応じる得難い好機」のことを「啐啄同時」というのです。親鳥の啄が一瞬でもあやまると、中のヒナ鳥の命があぶない、早くてもいけない、遅くてもいけない、まことに大事なそれだけに危険な一瞬であり啐啄は同時でなくてはなりません。

人生のタイミングもそうですよね。  
 日頃準備することが大切です。祥子

\*仏教よもやま話より抜粋